



2018年7月

第277号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 久保田 貞視
副会長 花輪 宗命・並木信一
書記 多河敏子・長谷川あや子
会計 小口 多津子
ネット会長 久保田佐和子
担当主事 中里 敦
プリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 重子・多河 敏子
直前会長 小口 多津子

国際会長 Moon Sang Bong (韓国) 主題 “Yes, we can change”
スローガン “Courage to challenges” 「挑戦への勇氣」
アジア地域会長 田中博之(東日本区) 主題 Action 「アクション」
スローガン “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
東日本区理事 宮内友弥 (東京武蔵野多摩) 主題: 「為せば、成る」
副題「ワイズが何をしてくれるかだけでなく、あなたがワイズに対して何が出来るかを考えて実行しよう」
あずさ部部长 廣瀬 健 (甲府21) 主題「未来はそれを備える人のものである」
クラブ会長 主題「動こう、動かそう！」副題「変わろう、変えよう！」

7月キックオフ例会プログラム

日時: 7月7日(土)・18:00~20:00

場所: 北野事務所2F 大会議室

受付: 中塚、古市

司会: 中里

開会点鐘	久保田会長
ワイズソング	一同
ワイズの信条	一同
ゲスト・ビジターの紹介	久保田会長
新旧会長・メネット会長引継ぎ式	新旧会長 新旧メネット会長
新会長新年度挨拶	久保田会長
聖句朗読・感謝	小口
会食(会食をしながら報告・連絡事項)	
卓話「プロチームとしての地域貢献」	
お話: 東京八王子ビートルズ取締役 沢登 敏也氏	
スマイル	中塚
ハッピーバースデー	久保田会長
閉会点鐘	久保田会長

巻頭言

クラブ会長就任にあたって

久保田貞視

今期、会長に指名され3度目の会長となりました。クラブ設立の1994年10月以来のチャーターメンバーでこれまでの活動にすべて参加してきましたが、メンバーの平均年齢は24年付加され、かつての若さや活力は薄れてきています。しかし、中央大学ひつじぐも皆さんの積極的参加があり、若いエネルギーを吸収できるお蔭で活動できています。

会長主題は国際会長、アジア太平洋会長、東日本区理事、あずさ部部長の主題も考慮して、「動こう、動かそう！」副題を「変わろう、変えよう！」としました。現在のクラブ活動として、例会の充実、ひつじぐもとの協働、チャリティコンサート、災害・被災支援の街頭募金、絹の道のサポートなどの活動を更に促進するためには加齢に関わらず、まずは動きましょう。そ

先月の例会ポイント (6月)		BFポイント	
在籍	17名	切手 (国内・海外)	35g
メン	15名	累計	35g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	88%	累計	0円
メネット	2名	スマイル	6,140円
ゲスト	0名	累計	86,080円
ビジター	3名	オークション	0円
ひつじぐも	4名	累計	0円

聖句

「主はこう言われる。正義を守り、恵みの業を行え。わたしの救いが実現し、わたしの恵みの業が現れるのは間近い。」
(イザヤ56章1節)

してより良い社会実現のために地域社会を動かしましょう。加えて、思考を前向きに変えて積極的に私達を変えるだけでなく、地域にも浸透し、ワイズ精神を訴えていきましょう。そのためには、①市民性②社会変革性③組織安定性を常に念頭に置くことです。

更に、若いメンバーを増やすことです。並木EMC委員長を中心に全員が会員増強のための方策を考えてより努力しましょう。会員数をある程度維持することがクラブ活動の活性化に繋がります。

その他に、あずさ部内クラブを始め他クラブとの交流、IBC 高雄ポートクラブとの連携を密にし、他クラブとの協働も考えていきたいものです。

クラブ皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

第21回東日本区大会に参加して

長谷川あや子

6月2日(土)～3日(日)沼津のプラザヴェルデで第21回東日本区大会が開催されました。大会の参加者は480名。近年では一番多い参加者です。栗本理事をはじめホストの沼津クラブの皆さんのご努力の賜物でしょう。前日に2017-18年度第4回東日本区役員会があり、私は次期のための勉強として出席しました。役員会がつつがなく終了した後は部長と事業主任のパワーポイントを使っての報告のリハーサル。会場の外では掲示板の用意や配置のことなど沼津クラブの方達が忙しそうに働いていました。6月2日一快晴。大会は13時からですが、その前に年次代議員会、ユースの会、メネットアワーがあり、私は次期区会計として年次代議員会に出席しました。2018-19年度予算案は4月の現・次期合同役員会で承認されましたが、東日本区の最高意志決定機関である年次代議員会での承認が必要で大変緊張いたしました。無事に予算案が通りほっといたしました。13時からバナーセレモニー、開会式、来賓のお祝辞を頂き、その後メモリアルアワーがありました。今年は多くのワイズメンが召されましたが、我がクラブの橋本秀昌さんの写真が写し出された時には会場から何ともいえないため息が漏れました。とてもいい笑顔のお写真でした。改めて、橋本さんが八王子ワイズに残して下さった宝物を思い出しました。

東日本区アワー I では理事年次報告、年次代議員会報告、部長報告、そして奈良傳賞授賞式がありました。東京クラブの持田二郎氏と千葉クラブの倉石昇氏が受賞されました。30年、40年という長い年月の献身的なお働きに感謝いたします。

特別講演会はバルセロナオリンピックの競泳史上最年少金メダリストに輝いた岩崎恭子さんでした。「今までの人生で一番幸せでした。」というフレーズを覚えていらっしゃる方は多いと思います。本当に可愛かったし、素晴らしい泳ぎでした。その時14歳だった恭子ちゃんも今は40代、スイミングアドバイザーとしてご活躍ですが、講演は「幸せはいつも自分でつ

かむ」と題し、オリンピック金メダル受賞後の嵐のような環境の変化など、飾らぬ語り口でお話下さり、人生について、教育について考えさせる深い内容でした。

晩餐会では部対抗の催し物があり、あずさ部は浅羽直前部長の作詞作曲の「あずさの道」の大合唱で大いに盛り上がりました。又、IYC 参加者、宮内蒼也さん、須郷利貴さん、他2名が壇上に上がり、団長である宮内さんが参加の決意を述べ会場のワイズメンの声援を受けました。

3日、東日本区アワー II において事業主任、ワイズメネット委員長報告があり各種表彰が行われました。八王子クラブはインビテーションキャンペーン優秀クラブ賞、BF 献金貢献賞、BF 使用済み切手収集優秀賞、STEP 協力賞、そして栄えある優秀クラブ賞を受賞いたしました。中大学 Y ひつじくもとの交流に熱心で IYC、AYC にユースを派遣・推薦していること。チャリティコンサートを開催し、多額の献金を続けていることが評価されました。20年に亘り、クラブの皆が純粋な心で奉仕してきたお蔭ですね。その後、理事・役員引き継ぎ式が元国際会長青木一芳(千葉)の司式で行われました。私たちの親クラブである東京武蔵野多摩クラブの宮内友弥理事に八王子クラブとしても全面的に協力いたしましょう。私は区会計として微力ながら全力を尽くします。こうして第21回東日本区大会も無事に終わりました。壇上に上がり、理事から表彰を受けるクラブも、ないクラブもありますが、それぞれの一年間の働きを讃え、次期への抱負や希望に満たされて帰途に着く。それが東日本区大会だと思います。

(参加者:小口・久保田・中里・長谷川)



BF国際代表歓迎特別例会に出席して

久保田貞視

東日本区大会の翌日の6月4日(月)、甲府21クラブ主催により、岡島ローヤル会館でBF代表歓迎特別例会が開催され、出席しました。BF代表は Todd and Karen Robison ご夫妻でカナダのフレデリクトン市からです。フレデリクトンは1996年に国際大会が開催されたところで、東日本区大会では多くのワイズがその大会に参加していたと知意を強くしたようです。当日の歓迎会のクラブメンバー以外のゲストは23名と多く、あずさ部大野部長、神谷書記に、山梨英和学院のギッシュ・ジョ

ージ院長・理事長、中高の三井校長、山梨YMCAの大澤理事長ほか、7月入会予定の3名が出席しました。

特別例会は、佐藤会長の開会点鐘で始まり、会長挨拶と駒田ワイズの会員一言「山の魅力」のあと、ゲスト紹介で歓迎会に入りました。

BF代表ロビンソン氏のスピーチは次の通り。フレデリクトン地区はカナダ東部で、カナダ・カリビアン区のマリタイム部に属している。市の人口56千人(グレーターで10万人)のフレデリクトンだけで4クラブあり、彼の所属するEpsilon Y's Service ClubはフレデリクトンYMCA支援のほか、キッチン設備を持ち、チャウダーや種々の食物を地元のホッケーチームやYMCA、フードバンクに提供、地元でホームショーを開催、高校生に奨学金を支給するなど多面的に活動している。夫妻は森の中に暮らしており、二人そろって同じ高校の教師をしている。今回の東日本区訪問で、王様か大統領のような扱いを受け恐縮し、感謝していると挨拶されました。

テーブルスピーチでは大野部長、大澤山梨YMCA理事長、山梨英和学院のギッシュ理事長、沼津クラブの長谷川ワイズ、甲府クラブのピーター次期会長、私などが歓迎の挨拶をしました。このBF代表歓迎会は綿密に準備され、地元の関係者を広く招待し、廣瀬次期あずさ部部長の名司会で楽しい歓迎会となり、BF代表ご夫妻は感激のお礼で閉会となりました。



DBC 大阪セントラルクラブ最後の例会

小口多津子

6月16日(土)の3時から大阪セントラルクラブ最後の「感謝例会」が大阪YMCAの3Fにて行われ、セントラルメンバー全員8人を含む、46名もの出席でした。

入江会長をはじめとしてメンバー一致で、24年目でワイズのクラブを閉じることになったその主旨というのは、「ワイズの活動からYMCAボランティアクラブの活動へ」でした。

1部では、「パワーポイントで綴る、大阪セントラルクラブの歩み」があり、セントラルクラブのこれまでの大きな活動を占める留学生支援のことが報告され、そのあと続けて、東京八王子クラブとのDBC合同例会風景の映像、これまでご一緒した20回を超える旅行の様子が披露されました。最後の5月の葉山、逗子までの写真で、どの写真もついこの間のようでした。

た。

この映像のあとで、私が紹介を受けて、合同例会の感想を沢山の感謝の言葉でお伝えしました。特に伝えた事は、大阪セントラルがいつも合同例会で大事にしてきたものの一つ、セントラルクラブのクリスチャニティの事です。このことは、私は20回を重ねる合同例会でいつも感じていたことでした。大事なことをずっと、しっかり守ってこられました。土、日にわたる旅行ですから、早朝礼拝が必ずあります。セントラルクラブではどの場所でも、どなたでも朝の奨励をきちんとされました。土手の階段でひな壇のように皆が座って、下から見上げるようにお話をされた故尾崎琢磨さん、京都の宿舎の鬱蒼とした庭の中で、皆が木々の間から顔を出して聞いた神田尚人さんのお話など、そんな光景のすべて思い出されます。

2部は、「今後の留学生支援の進め方」を古屋淳さんが次のように説明されました。

「最初の活動の始まりは、1998年4人の留学生を支援することからでした。学生が徐々に増えて、YMCAでは教師の指導の数を超えてしまい、そこでセントラルクラブが応援をすることからワイズ活動が始まったとのこと。学校が学生に出来る事は限られている、学校で補うことの出来ないプログラムを作って、例えば、納涼会、女子学生の浴衣体験、お茶の会、お料理など他にも日本に馴染むことなら何でもプログラムに取り込んだこと、10周年事業ではパソコンを提供したことなど。現在の日本語学校留学生は400人を超えている。ところが、このプログラムに力を注ぐと、ワイズメンズクラブとしての役目を十分に務める力が足りなくなったことが、ワイズを閉じざるを得ない一番の理由、ということでした。

でも私がセントラルクラブが凄くと思うのは、ワイズは閉じるけど、この留学生支援だけは今後もさらに力を入れて皆で支援するところです。学生が待っている8月の納涼例会、10月のバザー、ホームビジットなどの予定は、今から新しい形で応援するとのこと。さすが、セントラルクラブの精神、と私は思いました。

閉会点鐘の入江会長は、言葉を詰まらせて一言、「ワイズを作ったのは簡単だが、終わり方がこんな苦しいとは思わなかった」と、最後を閉じられました。



大阪セントラルクラブ最後の例会

西東京 YMCA 便り

センター長 中里 敦

毎年のことですが、この時期は、夏のキャンプに向けてリーダー会、打合せ会、トレーニングなど忙しく過ごしています。最近は東京 YMCA のキャンプの申し込みはインターネットで行うようになりました。以前のように窓口、電話による受け付けはどのセンターも行っておりません。また、パンフレットも全センターのキャンプが一覧で掲載され、行先、日程、集合解散場所によって選べるようになっています。おかげさまで、西東京センターの申し込みも例年に比べ好調です。この統一化は、ブランディングによるところもあり、どこの Y に行っても、どこのセンターのキャンプに参加しても同じ「みつかるとつながる。よくなっていく。」を提供できるということです。オール東京、オールジャパンの視点でもあります。スタッフ、リーダーもその視点を持てることは、YMCA のキャンプの意義の共有化、つながりの意識など広がりがあり、力を合わせて進むことができるように思います。その反面、自分たちが行ったプログラムの評価が YMCA 全体の評価にもつながっていく恐れも感じています。

しかし、オール東京化しながらも、地域性や各センターらしさをどう出していくかも改めて考えさせられる時もあります。西東京は障がい児者のプログラムが多いことが特徴としてよくあげられます。これは武蔵野 YMCA、立川 YMCA から引き継いでいるものが多くあります。社会的に弱い立場にある方々に目を向け、共に生きる社会を目指して先人たちが歴史を積み重ねてきました。ここ数年は、体制を整えることが難しいなど以前のような十分な活動を展開できていませんが、先人たちが積み重ねてきた西東京らしさを大切にしながらこれからも活動を続けられるように、少しでも充実したものになるようにしていきたいと思えます。ボランティアリーダーを募集中です。お近くに大学生、専門学生などいらっしゃいましたらご紹介ください。

中大便り

中大ひつじくも 2年 戸加理春樹

まず、6月9日に八王子生活実習所がありました。今回は3年生2名、2年生2名、1年生2名の計6名でした。今年度入って初めて1年生が実習所に参加しました。今回はアトリエサークル活動で、キャラクターのイラストや電車等の写真を切り抜き、画用紙に貼っていくという形で作品作りが行われました。その後、新入生は施設の方から説明を受けました。新入生は初めての活動で戸惑いを感じましたが、貴重な経験となったと述べており、今後の実習所の活動また他の活動につなげていってもらえたらとても嬉しいです。

6月15日にCスクエアで定例会が行われました。今回の定例会は白羊会や八王子ワイズメンズクラブの方々にお越し頂きました。まだ新年度が始まったばかりなので、新入生と上級生の交流を深めるためにアイスブレイクを中心に行われました。アイスブレイクでは言葉を話さずに誕生日順に並ぶというゲームをしました。そこでは手を中心に使って相手とコミュニケーションを取り、無事全員誕生日順に並ぶことができました。この経験は、実習所において話すことができない障害者とコミュニケーションを取るときにつなげられると思うので、これから生かしていきたいです。また、この後食事会が開かれ、楽しく会食できて良かったです。

そして6月24日に早稲田大学YMCA 親愛学舎で関東学Y春のオリエンテーションが行われました。そこでは中央大学、立教大学、清泉女子大学、早稲田大学の学生が集まり、アイスブレイクやプログラム紹介を通して、学生YMCAの活動やつながりを身近に感じることができ、BBQを通して大学や学年分け隔てなく交流を深めることができました。春オリでの出会いをこれからの活動に繋げていきたいです。

お話

整体院を経営していらっしゃる院長さんから、小生が差し上げた、この聖句が書かれている「しおり」を教訓として治療院にかけていらっしゃるというお便りをいただきました。

救いが実現し、豊かな神の恵みの業が現れるのは「間近い」と宣言されていますので、私などは無責任に早く実現されるようにと思えます。

しかし、その前に「正義を守り、恵みの業を行え。」と主が命じておられることを、私たちはないがしろにしているような気がします。命令にろくに従わないで安易に恵みにだけ与かろうというのは虫が良すぎる気がしています。

この院長さんは、日々のお仕事を通して、多くの人に恵みを施す努力されているのですからこの聖句を生かしていらっしゃるのでしょうか。

仲田 達男

夏休みのつれづれに！

「中大学Y(ひつぐも)との交流 に際して、授賞して。」

中塚 辰生

中大学Y(ひつぐも)との交流は、永年引続き、IYC、AYCへ派遣・推薦を、実施しており、毎月のクラブ例会への出席、特に10月例会は、[中大学Yナイト]として、定着化しています。

例会プログラムから、司会、進行、を始め、ひつぐもに、委ね、ひつぐもとしても、実績が、定着化しています。他クラブからの出席を、お待ちしております。

絹の道ボランティアメンバー団らん！キッチン中山にて

多河 敏子

6月29日(金)は鎌水にあるキッチン中山において食事が持たれました。集まったのは小口会長といつも諸計画を考え実施して下さる山中さん・茂木さんを中心に赤羽・石井・下重・調・山口・久保田・辻・大久保・多河での会食の団欒のひとときでした。

そのあと絹の道へと場所を替え、色紙を使っての花作りで約1時間。通所の皆さんは男性約7名、女性10名で皆さん熱心に取り組んでいました。中には90歳だよ。と話す明るいおじさんも居ました。一緒に取り組みながら中学で図工がいつも3だった自分を思い出していました。



8月 IYC (韓国) 参加のユース代表たち



高尾わくわくヴェレッジ便り 7月号

館長 古市 健

6月は上旬を過ぎた辺りから肌寒い雨の日が続き、今年は梅雨らしい梅雨だと思っていたところ、ここ数日は一気に30度を超える晴天が続いています。体調管理に気をつけなければと思っていた矢先、恥ずかしながら風邪をひいてしまいました。この梅雨の中休みを経て再び雨の日が続いた後は、今年も暑い夏がやってくることでしょう。体調管理に一層注意を払い、元気にお客様をお迎えしていきたいと思っております。

今年度の第一四半期が間もなく終わろうとしております。4月こそ、前年度を少し下回る宿泊者数になったものの、5月、6月ともに前年度を上回るお客様にご宿泊をしていただくことができ、スタッフ一同、忙しいながらも非常に充実した毎日を過ごしております。特に6月は、まだ終了していないものの宿泊者が3,500名を超えることが確実視されております。開業以来、平均すれば3,000名に満たなかった6月の宿泊者数が、ここ3年で、3,400名に到達し、いよいよ今年は3,500名を越えそうです。もはや7月の宿泊者数に肉薄する数字であり、当館の繁忙期は7、8月との認識を改め、6月も既に繁忙期と心得なければならぬ状況になってまいりました。お客様が多くなればなるほど、忙しさに負けてサービスの質が落ちてしまう可能性もあります。そうならぬよう、気を引き締めて、お客様の安心と安全を最優先にサービスの提供を心がけてまいりたいと思っております。

7月となり、当館で実施されるキャンプの準備も粛々と進んでおります。大変ありがたいことに、当館のキャンプに参加することを心待ちにしているお客様もいらっしゃいます。その期待を真摯に受け止めて、担当するスタッフはキャンプをお手伝いしてくれる学生ボランティアの方々と、討議を重ねています。それが良い結果となり、今年も安全に、全てのキャンプが参加者の笑顔とともに終わることを心より願っています。ぜひ皆さまのお心も寄せていただければ幸いです。



当館職員通用口付近のアジサイ

報 告

6月23日第二例会報告

- ・ 小口会長より大阪セントラルクラブ6月16日「6月感謝例会」の報告。同クラブの実質の解散会に大阪YMCA会館に参加。参加者:46名
 今後は大阪YMCAサポートクラブとして活動予定。
- ・ 今期決算報告 長谷川さんより決算報告書と仲田氏の監査結果が報告された。
- ・ プリテンの印刷機不調に対する考え。A3 に印刷が不調であるので、A4 の用紙で印刷を考える。6ページの場合はA4 を3枚印刷で対応する。
- ・ 例会の食事代を今後 1,000 円とする。来期より実施。
- ・ 7月7日(土)キックオフ例会八王子市のバスケットチームの話。

<西東京センター 主な行事予定>

7月の予定◆10日(火)「のどトレ教室」

@西東京センター 14時00分~15時00分

毎月(8月を除く)第2火曜日に行っています。

声を出す、うまく飲み込む機能は年々衰え、意識してトレーニングしないと衰えを防ぐことはできません。誤嚥予防、ハリのある声や スムーズな滑舌を身につけていきます。

定員: 各回 30 名 参加費: 700 円/1 回

絹の道デイサービスセンター ボランティア活動

【報告】6月29日(金) ペーパーフラワー 14:00~15:00

参加者: 赤羽、石井、久保田、下重、多河、調、山口、山中、茂木

【予定】7月・8月はお休みです。

9月28日(金) 14:00~15:00 ペーパーフラワー

*BF2018年6月報告 プルタブ報告

切手: 国内	35g		
海外	0g	累計	35g
プルタブ	70g	累計	70g

7月の誕生祝い

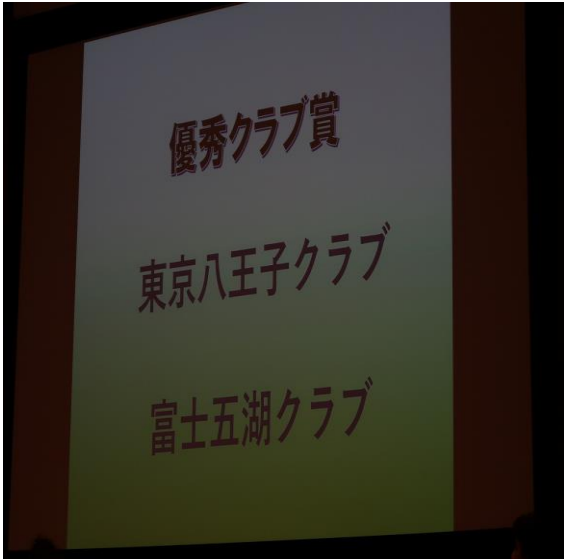
花輪 宗命さん 7月 8日

中塚 辰生さん 7月20日

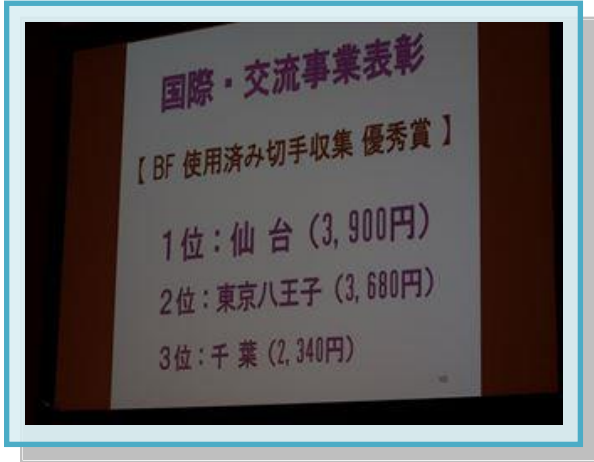
ブリテン編集委員

山本英次・茂木稔・大久保重子・多河敏子

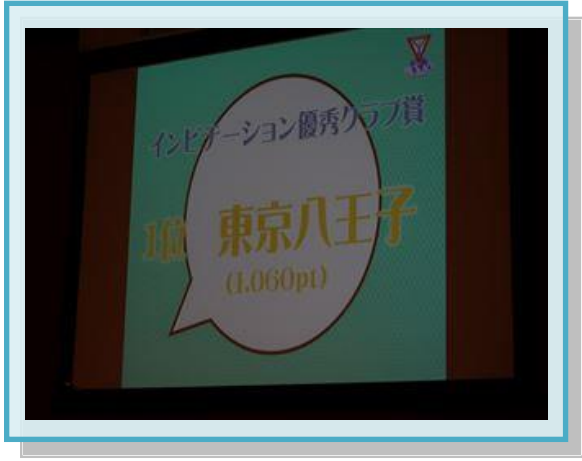
<http://ys-east.jimdo.com/bulletin/tokyohachioiji/>



2017年度 優秀賞 獲得



使用済み切手収集優秀賞第2位獲得



インビテーション優秀賞